

養殖ワカメ雑感

川 嶋 昭 二

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
道東の養殖ワカメは四一年度の成績が各地とも良好な結果で終つたようである。しかし、
水試で直接調査指導している根室、浜中の例をみても一応黒字経営が成り
立つと言つて結果が得られています。しかし、
それですべてが解決し、誰でも飛びつける事
業になつたのかと言つて必ずしもそうではな
いことです。

いのです。一月札幌で行なわれた青年婦人研究グループ大会の分科会で、道東のワカメ養殖の発展のためには、まづ養殖と云う新しい事業の本質を理解してから行なつてほしいと結論しています。たしかに現在の道東ワカメは高値に支えられています。が、収量は私たちの考えている目標をかなり下廻っています。水試としては一台当り収量をせめて三百〜四百キロにしたいのですが、実際は最高で二百キロ前後です。しかし台数が増え、平均収量も上昇すれば安値はまぬかれません。それくらいなら、養殖技術はそのままにしてむしろ稀少価値を持たせた方が良くと言ひ理くつも出てきます。それでは私たちの研究も指導も必要ないし、第一に沿岸漁民のことをほんとうに考えていないへ理屈になります。

種苗供給、養成技術、出荷体制の確立など道南と全く違う事情について関係組合が話し合い、積極的に解決して行く機会が必要になつてきたようです。一日も早くそのような場ができることを希望します。

点を確かめたいと考へて行なわれたものです。残念ながらこの最も大事な点については、まだ結論は得られず、二、三年続けて比較したいと思ひますが、基礎的な問題が多少知られましたので速報としてお知らせします。

(1) ノレン式は抵抗が少なく、荒い海面で利用価値が高い。垂下された養殖繩(長さ三m)はからまることは全くない。

(2) ワカメの生長は初期は水深の浅い所ほど良く、深い所ほどおそい。(種糸は水深五〇cmの所から二〇cm間隔にはさみ込みにした)しかし終期になるにつれて上下の生長差は

あまり見られなくなる。

(3) 水平筏式(養殖水深二m)よりも早期出荷が可能。すなわち浅い所のは約半月ぐらい早く出荷できるようになる。したがつて両筏の併用によつて出荷調整ができそうである。

(4) 慾張つて水深五〇cm以上のところに種糸をつけると、ワカメが大きくなつてから養殖繩が波にもまれ、繩のつけ根から切断されやすい。

なお詳細は他の機会に発表する予定です。